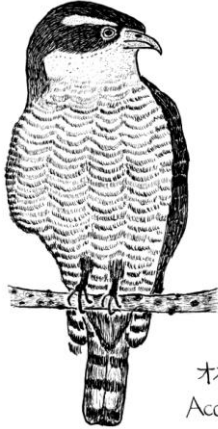


# 万博公園探鳥会 2010年度の記録

(10年4月～11年3月)

2011年3月31日



オオタカ  
*Accipiter gentilis*  
96.2.18 G.H.

- ①万博探鳥会 10年度実績
- ②10年度探鳥会概要
- ③01年～10年観察記録からの特記
- ④01年～10年度観察回数

集約 吹田野鳥の会／日本野鳥の会大阪支部  
協力 (独)日本万国博覧会記念機構

## ①万博探鳥会10年度実績

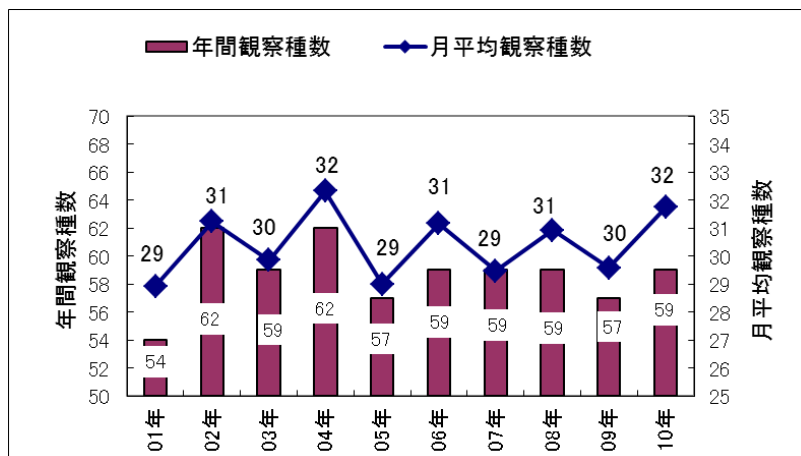
- ・主催 日本野鳥の会大阪支部
- ・定例開催日 毎月第2土曜日  
9：30 自然文化園中央口集合  
15：00 頃日本庭園東側で終了解散
- ・年間探鳥会回数 12回（10月雨中止とするも、途中までの参考記録を記載）
- ・探鳥会で観察した鳥 59種（09年 57種）  
毎回の観察種 22～45種（09年 20～37種）  
年平均 31.8種／回（09年 29.6種）
- ・探鳥会参加者数 587人（09年 709人、08年 598人）  
毎回の参加者 29人～77人（29人～86人）  
年平均 54人／回（09年 59人）  
（参加者が減少している。）

### ・01～10年観察種数

10年の年間観察種数は59種（09年57種）とほぼ平年レベルであった。

一方、探鳥会1回あたりの観察種数は32種と、この10年間では最高レベルとなっ

た。この要因は、1月探鳥会で45種観察するなど、冬鳥が多かったことによる。



## ②10年度(10/4~11/3)探鳥会概要

月/日	観察種数	参加者数	天候	コメント
4/10	30	77	晴	<p><b>(4月)</b>きれいに咲きそろったサクラを眺めながら、ウグイスの囀りが耳に心地よい探鳥会でした。ツグミやシロハラ、アトリなどの冬鳥がよく観察できたが、夏鳥はツバメだけでした。繁殖期を迎え、コサギの目先がピンク色に染まっていたのが印象的でした。</p> <p><b>(5月)</b>初夏の気持ちの良い園内を、夏鳥を探して歩きました。芝生の広場にコチドリがいました。また日本庭園ではキビタキがテンボ良く囀ってくれましたが、愛想が悪く姿は見せてくれませんでした。エナガの家族と出会い、すっかり大きくなった若鳥が自分で虫を捕っている様子も観察できました。冬鳥のツグミやシメが少数観察できました。</p> <p><b>(6月)</b>カラッと気持ち良く晴れた園内では、今年生まれの幼鳥たちで賑わっていました。スズメをはじめ、シジュウカラ、ムクドリ、セグロセキレイなどの幼鳥が親鳥に餌をねだる様子などがよく観察できました。また、抱卵中のカイツブリもいたので、来月が楽しみです。</p>
5/8	29	59	晴	
6/12	26	55	晴	
7/10	23	31	晴	<p><b>(7月)</b>恒例のゴミ拾い探鳥会は、梅雨の晴れ間の暑い一日でした。水の抜けた夢の池にはコチドリが4羽、人が近づかないので最近はこちらでよく観察されるようです。また、ハクセキレイ、セグロセキレイの若鳥が自分で餌を探っていて、もう独り立ちしている様子やカワセミの若鳥も観察できました。暑期中、皆さんお疲れ様でした。</p> <p><b>(8月)</b>今年の夏の暑さは例年以上に厳しく、園内の野鳥たちも木陰で暑さを避けているのか、あまり姿を見せてくれませんでした。水のない夢の池では今月もコチドリの姿が見られ、先月に続いてハクセキレイ、セグロセキレイの若鳥も観察できました。また、カイツブリの幼鳥はもう自分で餌を捕れるようになったようで、何度も潜っていました。近くでは親のカイツブリが2回目の繁殖を行うのか、抱卵や巣を補修しているおり、来月が楽しみです。</p> <p><b>(9月)</b>朝晩は少し涼しさを感じられるようになりましたが、日中はまだまだ暑い公園内を秋の渡りの鳥を探して歩きました。エゾビタキとコサメビタキが虫を捕る様子を観察することができ、また、コチドリが夢の池ではなく、日本庭園の心字池に集合していました。カイツブリのヒナも元気に育っていました。</p>
8/14	24	29	晴	
9/11	27	33	晴	
10/9	22		雨	<p><b>(10月)</b>あいにくの雨で探鳥会は中止としましたが、集まったリーダーと若干の参加者で公園内を少し歩きました。雨の中でも過去例のないほどの数のコサメビタキ、エゾビタキが虫を探して活発に飛び回っていました。また、キビタキ、オオルリの姿もあり、驚いたことに早くもシメを観察でき、探鳥会が実施できていれば、と残念に思いました。</p> <p><b>(11月)</b>季節はずれの黄砂で青空が見えない一日でした。今年の秋は例年より冬鳥の渡来が早いようで、公園内でもマヒワ、ツグミなどの群れが何度も飛び回る様子が観察できました。中でもマヒワがアキニレに集まってきてしきりに実を食べる様子には、歓声が上がっていました。</p> <p><b>(12月)</b>天気予報は午後から下り坂で、空模様を気にしながらの探鳥会でした。先月に続いて、今日の主役はマヒワ。大きな群れでアキニレからアキニレに飛び回る様子や、群がって実を食べる姿を堪能できました。時々雨が降りましたが、なんとか最後まで実施することができました。珍しいオジロビタキやミヤマホオジロが観察できたのは嬉しいのですが、一部の心ないカメラマンが追いかけて回す光景は悲しいものでした。</p>
11/13	39	61	曇	
12/11	40	57	曇一時雨	
1/8	46	56	晴	<p><b>(1月)</b>新年最初の探鳥会、開始早々からオジロビタキやジョウビタキが何度も出てくれ、アオジもじっくりときれいな姿を見せてくれました。昨秋から楽しませてくれているマヒワは、今月も間近で観察でき、また万博ではあまり見かけないイカルチドリが4羽も来てくれました。</p> <p><b>(2月)</b>アキニレの実がほとんど落ちたので、地上で採餌するアトリ類をよく観察できました。今月も主役はマヒワ。300羽を超える大群が採餌しているとき、何かに驚いて何度か一斉に飛びましたが、そのとき「ザザッ」と羽音が聞こえました。また広場にイカルとシメもたくさん下りていました。日本庭園ではトラツグミ、カシラダカ、ミヤマホオジロが同時に出てくれ、特にミヤマホオジロのオスに歓声が上がっていました。また、万博では珍しいタシギも出てくれ、複雑な羽の模様も楽しむことができました。</p> <p><b>(3月)</b>探鳥会を始める前に、前日の東北・関東大震災で犠牲になられた方々に対して全員で黙祷を捧げました。今月もマヒワの大きな群れを観察することができたほか、カワセミが木の枝に長い間良いポーズで止まってくれて、一般の方にも楽しんでもらいました。今月の資料の表紙の鳥、トラツグミは日本庭園で姿を見せてくれました。</p>
2/12	42	66	晴	
3/12	39	63	曇後雨	

## ③01～10 年度 観察記録からの特記

### 1. 10年のトピックス

01年以降09年の9年間観察されていなかった鳥で、10年に追加された鳥はオジロビタキとカシラダカでした。中でもオジロビタキは万博探鳥会開始以来27年間の初記録となりました。

①**オジロビタキ** 梅林を中心に数か月滞在し、探鳥会では12月・1月と2ヶ月続いて観察できました。愛らしい姿が格好の被写体となるため、カメラマンに追いかけられる悲しい光景を見ることとなり残念であった。

②**カシラダカ** 万博公園の樹林の生長と共に、草原の鳥ホオジロ科の間はほとんど生息なくなっているため、カシラダカは1996年以15年ぶりの観察となった。日本庭園の竹林に2月は7羽も確認し、ミヤマホオジロ・トラツグミと共に観察できた。

③**オオタカ** 2007年から4年連続で繁殖・子育てをしているが、探鳥会でのオオタカ観察は、12回中の3回に止まった。オオタカ繁殖を守るために、立ち入り禁止区域を設定されたこともあるが、オオタカがいかにかに人の目をうまく避けて繁殖しているかという証拠でもある。今後も子育てを続けてくれることを願うのみである。

④**コチドリ** 万博公園でのシギ・チドリ観察は、渡りの季節に単発的に観察するのみであったが、5月～9月に続けてコチドリを観察しました。園内で繁殖したかどうかは確認できませんでしたが、夢の池が改修中で水抜きされており、雨が降るなどで水たまりがあったことから、コチドリが生息できる状態になっていたと思われる。

⑤**コサメビタキ・エゾビタキ** 10月探鳥会は雨のため公式探鳥会は中止としたが、有志で歩きました。雨にもかかわらず過去例のないほど多くの秋の渡り鳥、コサメビタキ(13羽)・エゾビタキ(5羽)・オオルリ(1羽)・キビタキ(1羽)を観察し、更にハクセキレイ(47羽)・シメ(3羽)の冬鳥も観察できました。しかし、雨が本降りとなり、通常コースの1/3程度、自然観察学習館までで終了としたため、観察種数は22種に止まった。

⑥**マヒワ** 次項で詳述するが、マヒワが10月後半に渡来し、毎月数100羽単位で観察できた。このようにマヒワが数多く観察できたのは1995年頃以来15年ぶりであり、しかも万博公園だけでなく日本野鳥の会大阪が定例探鳥会を開催している山野や都市公園、そして吹田市内の緑地などでも観察できる、マヒワの当たり年となりました。

## 2. 冬鳥の観察個体数推移

上述のオジロビタキ・カシラダカ・マヒワのみならず、シロハラ・ジョウビタキなど、11月～3月、晩秋～冬の5ヶ月間に観察した冬鳥の個体数が、この10年間で最大数となった。個体数だけでなく冬季の観察種数も多く、1月45種、2月41種、12月40種、そして5ヶ月平均でも40種を超えた。昨年、冬鳥の観察結果(羽/月)をグラフ化したが、2010年度分に追記した。

### ①アトリ・マヒワ

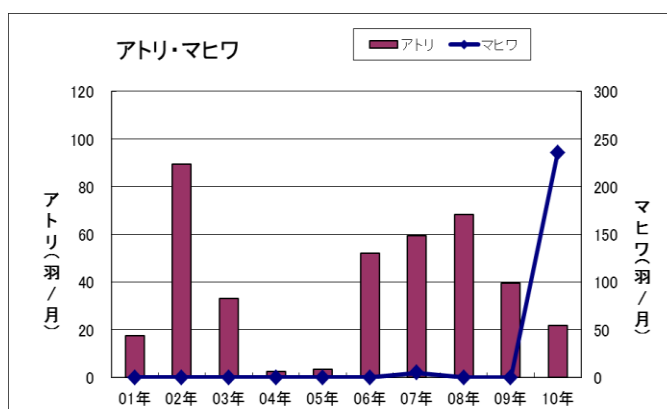
アトリはここ数年に比しやや少なく、月平均50羽程度に止まり、冬鳥の主役の座をマヒワに譲った年でした。

そのマヒワ、最近では07年に少数観察したのみでしたが、今冬は毎月80羽～400

羽、月平均250羽弱となりました。マヒワが多かったため、アキニレ以外の餌場でも観察できました。

マヒワの自然界での餌は、ハンノキ・オオバヤシャブシ・アカマツ・サワラなどの実であることが知られている。15年前マヒワが大阪近郊に大挙渡ってきたとき、万博でのマヒワの主食はアキニレとわかり、ハンノキ・サワラ・アメリカフウ・タイワンフウ・サルスベリ・ハルニレの実を利用したことを確認しているが、今年メタセコイアの実にも来ることがわかった。

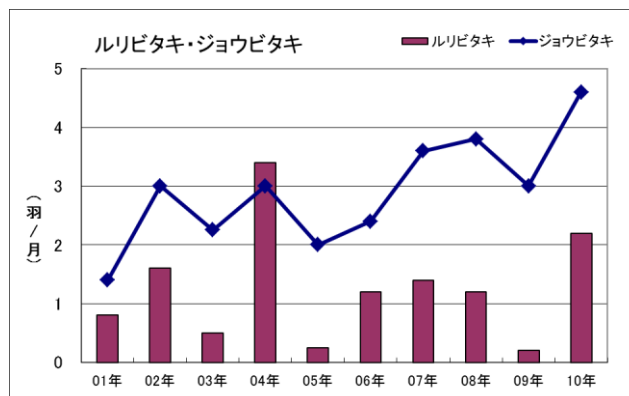
万博公園など都市公園にいるマヒワの木の実の嗜好順序は、アキニレ>サルスベリ>メタセコイア>アメリカフウ>・・・で、自然界に多いハンノキ(・オオバヤシャブシ)での採餌は遅かったようである。



### ②ルリビタキ・ジョウビタキ

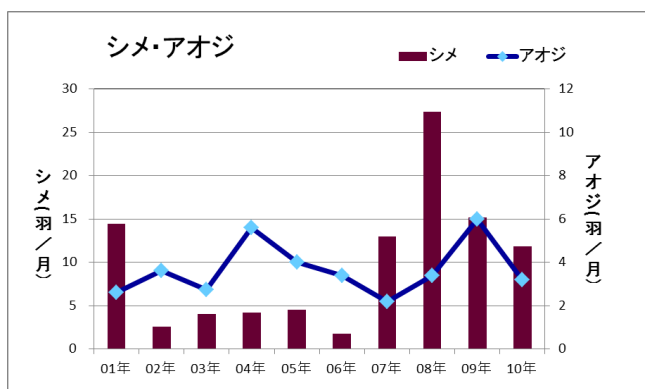
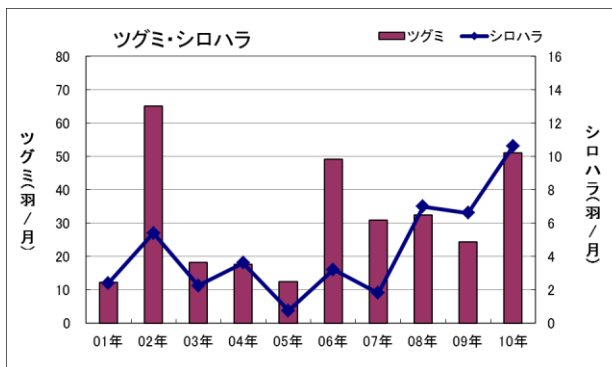
ジョウビタキが月平均5羽で最高となり、ルリビタキも2羽とこの10年間では2番目に多かった。

両種はマヒワ・アトリのように群でなく単独で生活しているため、観察は偶然性が影響している。観察数と生息実数とは異なるものの、今年の生息数は多かったものと思われる。



### ③ツグミ・シロハラ

2010 年はシロハラが毎月 10 羽強でこの 10 年間の最大値、ツグミも 50 羽でこの 10 年間では 2 番目の記録となった。特にシロハラが目立ち、林床で枯れ葉をひっくり返すさまを良く観察することができた。



### ④シメ・アオジ

シメ・アオジとも昨年よりは、幾分少なかった。しかしシメは 2 月に 24 羽確認するなど、越冬した個体数は少なくないと思われる。

## ④01～10年度 観察回数

	科名	種名	01年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	トータル	
1	カイツブリ	カイツブリ	13	13	13	12	13	13	13	13	12	11	126	
2	ウ	カワウ	11	12	13	12	13	11	13	11	9	12	117	
3	サギ	ゴイサギ	2	2	0	2	0	0	2	0	0	0	8	
4		ササゴイ	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
5		ダイサギ	1	5	2	1	0	3	1	3	5	2	23	
6		チュウサギ	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	
7		コサギ	6	7	9	8	7	11	12	10	9	9	88	
8		アオサギ	12	12	10	12	11	12	11	13	10	11	114	
9		カモ	オンドリ	0	0	2	0	2	10	2	1	0	0	17
10			マガモ	10	10	13	12	13	13	11	11	9	9	111
11	カルガモ		13	13	13	12	13	13	13	13	11	11	125	
12	コガモ		0	0	0	0	1	1	0	2	1	0	5	
13	ヨシガモ		0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3	
14	オカヨシガモ		3	2	3	4	0	0	1	0	0	0	13	
15	ヒドリガモ		0	1	1	4	5	5	4	4	4	2	30	
16	アメリカヒドリ		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
17	オナガガモ		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
18	ハシビロガモ		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
19	タカ	ミサゴ	1	0	0	1	1	1	0	3	2	0	9	
20		ハチクマ	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	
21		トビ	1	2	0	2	1	2	1	4	2	0	15	
22		オオタカ	4	4	7	7	6	4	8	6	5	3	54	
23		ハイタカ	4	6	3	3	8	3	4	4	5	4	44	
24		ノスリ	0	1	0	0	1	0	2	2	1	1	8	
25		サシバ	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	
26	ハヤブサ	ハヤブサ	6	0	0	0	2	0	0	1	0	1	10	
27	クイナ	バン	10	8	10	7	10	2	6	3	1	4	61	
28	チドリ	コチドリ	1	0	1	1	0	0	2	0	0	5	10	
29		イカルチドリ	0	1	0	1	0	0	0	1	1	2	6	
30		ケリ	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
31	シギ	クサシギ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
32		イソシギ	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3	
33		ヤマシギ	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	
34		タシギ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	
35	カモメ	ユリカモメ	0	2	1	1	0	2	1	1	0	1	9	
36		セグロカモメ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
37	ハト	キジバト	13	13	13	12	13	13	13	13	12	12	127	
38		アオバト	2	5	5	4	0	0	1	3	2	2	24	
39	カッコウ	ツツドリ	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	3	
40	フクロウ	フクロウ	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	
41	アマツバメ	アマツバメ	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	3	
42	カワセミ	カワセミ	11	11	10	11	12	11	13	11	10	10	110	
43	キツツキ	アカゲラ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
44		コゲラ	13	12	13	11	13	13	13	13	11	12	124	
45	ヒバリ	ヒバリ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
46	ツバメ	ショウドウツバメ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
47		ツバメ	7	7	6	6	7	6	7	7	6	6	65	
48		コシアカツバメ	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	4	
49		イワツバメ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
50	セキレイ	キセキレイ	5	8	8	7	9	8	8	8	7	7	75	
51		ハクセキレイ	11	12	11	11	12	12	12	13	12	11	117	
52		セグロセキレイ	13	13	13	12	13	13	13	13	13	12	127	

	科名	種名	01年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	トータル
53	セキレイ (続き)	ビンズイ	3	5	2	3	1	2	0	0	3	3	22
54		タヒバリ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
55	ヒヨドリ	ヒヨドリ	13	13	13	12	13	13	13	13	12	12	127
56	モズ	モズ	8	8	9	6	7	7	6	8	7	7	73
57	レンジャク	キレンジャク	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
58		ヒレンジャク	0	0	1	0	0	2	0	0	0	1	4
59	ツグミ	コマドリ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
60		ルリビタキ	3	4	3	5	2	4	3	5	1	4	34
61		ジョウビタキ	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	58
62		ノビタキ	1	1	0	0	0	0	0	3	2	0	7
63		トラツグミ	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	4
64		アカハラ	1	0	0	1	1	2	1	0	0	0	6
65		シロハラ	5	6	5	7	3	7	5	7	6	6	57
66		ノドグロツグミ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
67		ツグミ	6	6	7	7	5	7	6	5	7	7	63
68		ウグイス	ウグイス	6	8	6	8	4	7	6	8	9	8
69	オオヨシキリ		0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
70	メボソムシクイ		0	0	1	2	0	0	2	0	1	0	6
71	エゾムシクイ		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
72	センダイムシクイ		1	3	2	0	1	0	1	0	1	0	9
73	キクイタダキ		0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
74	ヒタキ	キビタキ	0	1	1	1	0	2	2	1	1	2	11
75		オジロビタキ										2	2
76		オオルリ	0	1	0	0	1	2	1	2	0	1	8
77		サメビタキ	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
78		エゾビタキ	0	1	0	2	0	1	0	2	0	2	8
79		コサメビタキ	2	4	3	2	2	2	3	3	3	2	26
80	エナガ	エナガ	13	13	13	12	12	12	11	13	12	12	123
81	シジュウカラ	ヒガラ	1	1	0	1	0	6	1	0	0	3	13
82		ヤマガラ	7	10	11	10	12	10	13	13	11	12	109
83		シジュウカラ	13	13	13	12	13	13	13	13	12	12	127
84	メジロ	メジロ	13	13	13	12	13	13	13	13	12	12	127
85	ホオジロ	ホオジロ	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	4
86		カシラダカ										2	2
87		ミヤマホオジロ	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3	5
88		アオジ	7	7	7	7	6	7	5	5	6	7	64
89		クロジ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
90		アトリ	アトリ	7	7	7	5	3	6	5	8	6	6
91	カワラヒワ		13	13	13	11	13	13	12	13	12	12	125
92	マヒワ		0	0	1	0	0	4	1	0	1	5	12
93	ベニマシコ		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
94	ウソ		0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
95	イカル		12	12	7	11	5	7	4	9	5	9	81
96	シメ		6	5	5	8	7	5	7	7	7	8	65
97	ハタオリドリ	ニュウナイズメ	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3
98		スズメ	13	13	13	12	13	13	13	13	12	12	127
99	ムクドリ	コムクドリ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
100		ムクドリ	13	13	11	11	13	12	12	12	11	12	120
101	カラス	カケス	0	0	0	6	0	5	0	1	0	4	16
102		ハシボソガラス	13	13	13	12	13	13	13	13	12	12	127
103		ハシブトガラス	13	13	13	12	13	13	13	13	12	12	127
		計	376	406	388	388	377	405	383	402	355	381	3861
			01年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	年平均
		年間観察種数	54	62	59	62	57	59	59	59	57	59	59
		月平均観察種数	29	31	30	32	29	31	29	31	30	32	30
		参加者数	1249	1155	1079	1004	856	771	763	598	709	587	877